



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911



## 株主通信

YBHD NEWS No.30  
(第148期 報告書) 平成24年6月



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

*The Next Perspective*



取締役社長

吉田 明

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに当社第148期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)事業年度が終了しましたので、株主通信をお届けし、その概況をご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、東日本大震災の影響により大きく落ち込みましたものの、サプライチェーンの復旧等に伴い持ち直しの動きが見られました。しかしながら、欧州債務問題、円高の進行、電力不足懸念などにより景気の回復は依然不透明な状況にあります。

当社グループを取り巻く現下の事業環境につきましても、震災対応の3次にわたる補正予算の編成および執行が実施されましたものの、新設橋梁の発注増に直接つながることはなく、国内新設橋梁の総発注量は前期並みに止まり、受注競争は一段と激化するなど、大変厳しい状況で推移いたしました。

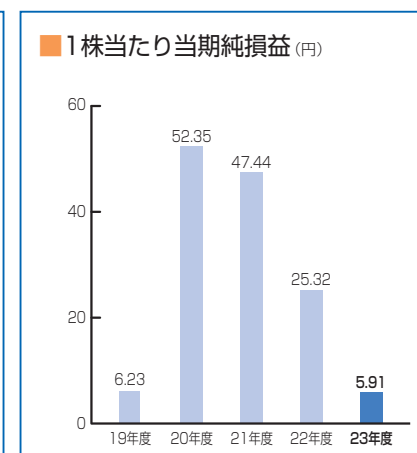
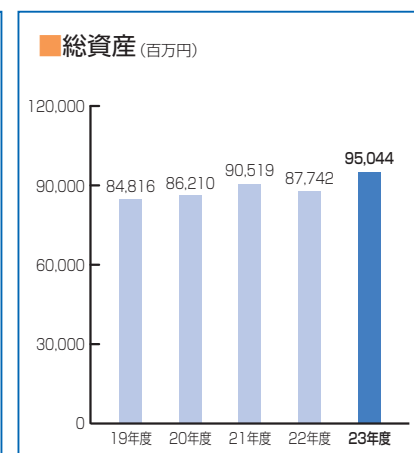
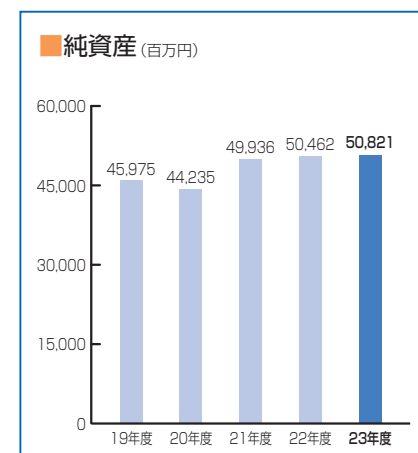
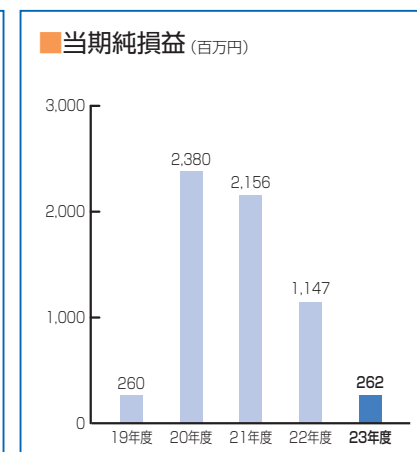
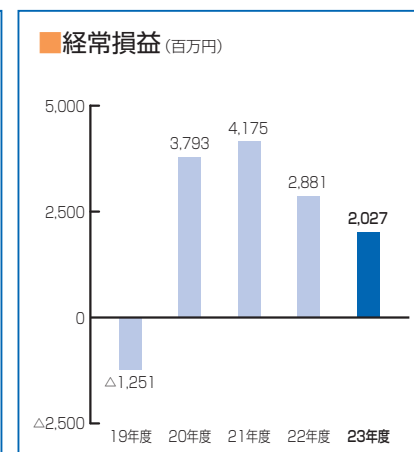
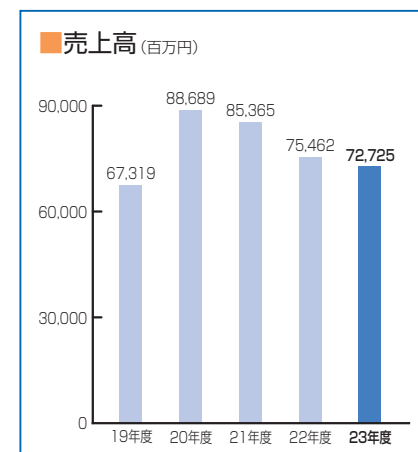
このような環境下にありまして、当社グループの業績は後ほど申し上げる結果となりました。

株主の皆様への利益還元につきましては、従来から業績・配当性向などを総合的に勘案のうえ安定した配当を継続することを基本としております。当期の期末配当は、1株につき4円50銭、中間配当を含め年間では9円とさせていただきます。

厳しい事業環境が続きますが、役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

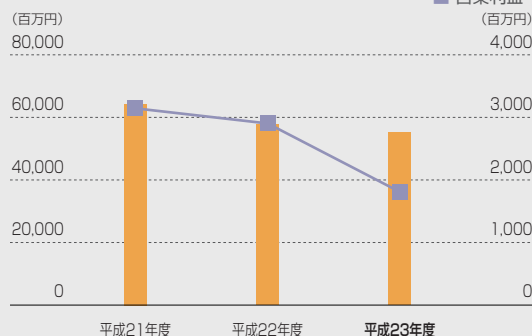
平成24年6月

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	(百万円)	67,319	88,689	85,365	75,462	72,725
経常損益	(百万円)	△1,251	3,793	4,175	2,881	2,027
当期純損益	(百万円)	260	2,380	2,156	1,147	262

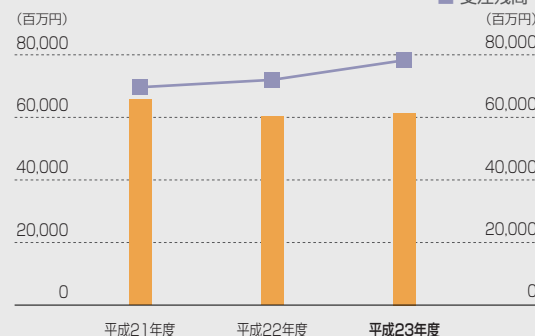


## 1 橋梁事業

### 売上高／営業利益



### 受注高／受注残高



(単位:百万円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	64,304	57,786	55,089
営業利益	3,140	2,905	1,808
受注高	65,704	60,196	61,347
受注残高	69,600	72,011	78,268

#### 当期の経営成績

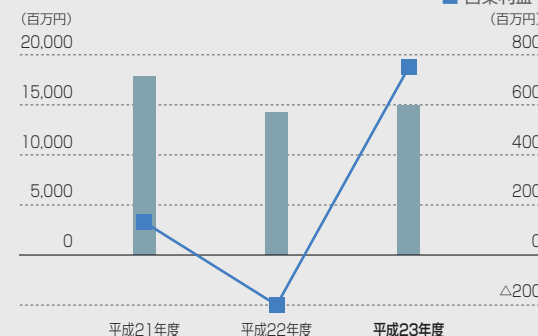
- 国内新設橋梁の受注につきましては前期実績を下回りましたが、国土交通省発注工事の受注を大幅に増加させることができました。
- 保全事業、海外事業、土木関連事業の受注につきましては前期実績を上回ることができました。
- 損益につきましては変動費や固定費の削減に努めましたが、前期に受注した採算の厳しい工事の生産量の増加および高速道路会社発注の新設橋梁受注と大型保全工事の採算見直しに伴う工事損失引当金の計上により、前期を下回りました。

#### 今後の取組み

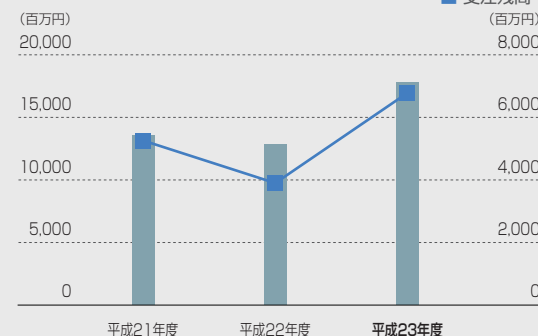
- 橋梁工事の受注に向け、総合評価落札方式による入札に勝ち抜くべく積極果敢な営業活動を展開し、客先ニーズに最適化する優れた技術提案の作成と積算精度の向上に注力してまいります。
- 保全工事につきましては、橋梁の補修工事および耐震補強製品等に係る需要が増加することが予想されますので、技術と製品開発の推進、技術者の確保に努め、また、工事受注・製品販売への取り組みを一層強化してまいります。
- 来期の業績は売上高640億円、営業利益20億円と予想しております。

## 2 建築環境事業

### 売上高／営業利益



### 受注高／受注残高



(単位:百万円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	17,799	14,216	14,935
営業利益	131	△200	751
受注高	13,535	12,853	17,817
受注残高	5,263	3,900	6,782

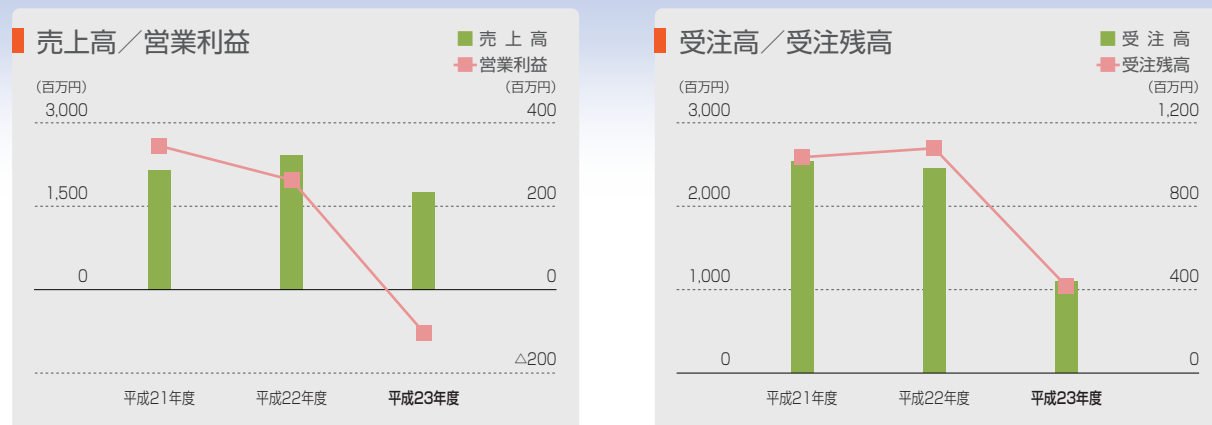
#### 当期の経営成績

- システム建築事業につきましては、販売代理店(ビルダー)網の拡大効果に加え、販路拡大のための積極的な営業活動を進めた結果、受注高は前期を大きく上回りました。
- 建築環境事業全体の受注高につきましても前期を上回りました。
- 売上高につきましては、ほぼ横這いとなりました。
- 損益につきましてはシステム建築事業における受注高・売上高の増加と固定費の圧縮により、業績は大きく改善いたしました。

#### 今後の取組み

- システム建築事業につきましては業績回復を図ることができましたが、今後とも積極的な営業活動を継続し販路拡大を図ってまいります。
- 建築事業および環境事業につきましては幅広い情報収集に努め、当社グループの技術が活用できる案件に取り組んでまいります。
- 来期の業績は売上高180億円、営業利益5億円と予想しております。

### 3 先端技術事業



(単位:百万円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	2,142	2,410	1,759
営業利益	344	262	△103
受注高	2,540	2,451	1,098
受注残高	1,036	1,077	416

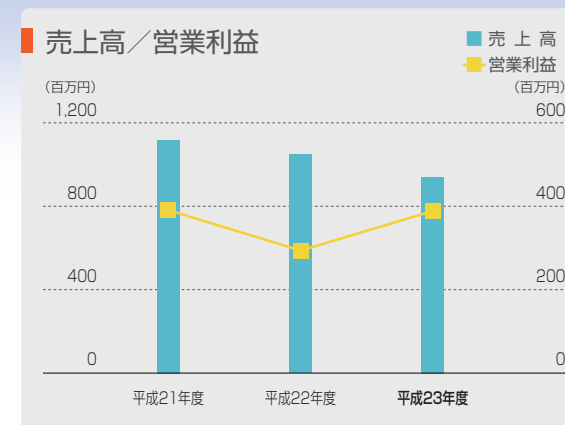
#### 当期の経営成績

- ・精密機器製造事業につきましては、世界的な液晶パネル不況の影響を受け、受注高は大きく落ち込みました。
- ・情報処理事業につきましても、公共事業の減少に伴い受注高は減少しました。
- ・損益につきましては1億円の損失となり、採算を確保することができませんでした。

#### 今後の取組み

- ・精密機器製造事業につきましては、主力の液晶パネル製造装置関連は大変厳しい状況にありますが、引き続き新規顧客開拓と新商品の開発に注力してまいります。
- ・来期の業績は売上高21億円、営業利益5千万円と予想しております。

### 4 不動産事業



(単位:百万円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
売上高	1,117	1,049	941
営業利益	391	294	388

#### 当期の経営成績・次期見通し

- ・前期に比べ減収増益となりました。
- ・来期の業績は売上高9億円、営業利益4億円と予想しております。

#### 主な事業内容

不動産賃貸事業、人材派遣業

## 株式会社横河住金ブリッジ

取締役社長 小山 清一

## ○就任の抱負

当社は平成21年10月に株式会社横河ブリッジホールディングスと住友金属工業株式会社の共同運営事業会社としてスタートしました。

ほぼ3年が経過しましたが、その間、前身であります住友金属工業株式会社の土木橋梁部門の優れた人材、技術、工場を

ベースに、我が国の鋼橋のトップメーカーであるYBHDグループの橋梁製作・施工技術、営業力を取り込み、高度な技術を備えた橋梁鉄構事業会社に成長しました。

親会社の二社は、いずれも100年の歴史を持っています。その共同運営事業会社として、両社の良き伝統を引き継ぎ、次の新たな100年に向かって着実に成長・発展するよう取り組んでまいります。



## ○今後の事業展開

新設橋梁事業と鉄構加工製品事業の二つの事業を柱とした複合経営を目指します。

コア事業である新設橋梁の市場環境は依然厳しいものの、関東という工場の立地条件を生かし、生産性の高い得意な橋梁を中心に、受注の拡大を図ります。

一方、鉄構加工製品はグループの中期経営計画に掲げられた保全、土木分野を中心に市場を開拓し、売上げを伸ばしていきます。また、当面の震災復興プロジェクトに対しては、当社で培ってきました様々な鋼構造技術を中心に社会貢献という立場から前向きに取り組んでまいります。

YBHDグループ各社との連携はもとより、住友金属工業株式会社との連携も深化させ、二つの事業を成長路線に乗せてまいります。

## 株式会社横河ニューライフ

取締役社長 名取 暢

## ○就任の抱負

当社は平成3年の創業以来、YBHDグループの事業会社の一員としてグループ各社と情報の共有化を図り、不動産管理業務・人材の派遣および紹介等さらには建物のリフォーム業務・情報インフラ関連業務等の各事業の推進を図ってまいりました。

今後ともYBHDグループのさらなる一体化を目指し、不動産・人材・情報資産などの経営資源の有効活用を努め、当社の役割を積極的に果たすことでYBHDグループのさらなる成長・発展に寄与してまいります。

## ○今後の事業展開

不動産管理・人材派遣・リフォーム・情報関連の4業務を事業の柱として、YBHDグループの幅広いネットワークを活用して受注拡大に努めてまいります。

とりわけ、情報関連業務につきましては、グループの情報インフラの安定運用に努めるとともに、コストメリットのある導入提案や業務の省力化と経営判断に必要な情報の正確かつ迅速な出力を目的としたシステム化提案に努めてまいります。

また、派遣等業務につきましては、YBHDグループ各社への設計施工技術者・CADオペレータ等の派遣のほか、多様化する企業活動に対応すべくグループ外企業への派遣・紹介にも努めてまいります。



## 床版取替工事の急速施工法の開発について

横河工事株式会社より、西名阪自動車道御幸大橋床版取替(3期)工事をご紹介します。本工事は、株主通信No.23(平成22年9月発行)でご紹介しました工事区間の西側の隣接部分に該当します。

前回の1期工事は、初めての夜間全面通行止め・昼間交通開放による工事ということもあり、予め工場で製作されたPC床版(1枚2.5m(長さ)×10m(幅)×0.21m(厚さ))を8日間で15枚の取替を行いました。

しかし、今回は高速道路のサービス低下の抑制や通行止めによる近隣への交通量増加に伴う事故の削減のため、より急速な施工が求められました。

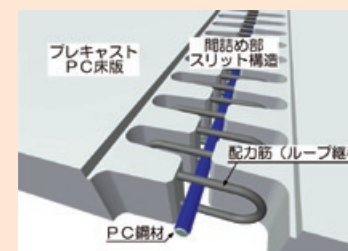
横河工事は、床版取替の急速施工法を検討するために、1期工事終了後にプロジェクトチームを設け、新たな取替床版の構造開発を行ってきました。従来用いていた間詰め部の超速硬コンクリートに代えてより硬化の速いウルトラ超速硬コンクリートをメーカーと開発し、それをを用いた結果、従来に比べ実工事時間8時間のうち2時間の短縮が可能となりました。また、床版研究の第一人者である大阪大学松井名誉教授の指導を受けて、本工事では新たな床版構造が採用されました。

今回も発注者である西日本高速道路株式会社様と共にリスクの洗い出しとその対策を検討し、17枚の床版を5日間で、無事故で取替えることができました。こうした点を評価していただき、発注者様からは感謝状をいただくことができました。また、採用された床版構造は、従来の鉄筋に代えてPC鋼材を緊張する構造にして急速施工化を図っていることもあり、(社)プレストレストコンクリート工学会の協会賞も受賞することができました。

今後は、床版取替工法の開発のみならず、他の維持補修分野でも横河工事の持つ技術と他社の持つ技術とを連携した技術開発を展開し、社会的ニーズに応えてまいります。



夜間全面通行止めによる施工状況



提案し採用された床版構造イメージ図





# 阿波しらさぎ大橋が 開通しました



平成24年4月25日、晴天のもと横河ブリッジが工事に参画した「阿波しらさぎ大橋」の開通式が多数の関係者の出席のもと盛大に行われました。本橋は、徳島市内の慢性的な交通渋滞の緩和を目的に建設が進められてきた徳島外環状道路事業の一部を成す橋梁であり、平成15年12月の着工以来、8年余りの歳月を経て開通したものです。橋長1,291mは河川に架かる橋梁としては国内有数の長さになります。

本橋梁の特徴として、架橋地点にシオマネキ等の希少種が生息する広大な干潟が存在するため、干潟部に橋脚を設けない長大支間が採用されました。また、鳥類の飛行の障害を少なくする配慮から、主塔が低く、ケーブル段数の少ない、世界に類の無い「ケーブルイグレット形式」が採用されました。さらに、橋の外に光を漏らさないように高欄内照明を採用するなど周辺環境に配慮した橋梁となっています。



開通式の様子



中央径間の閉合状況



ケーブル取付状況

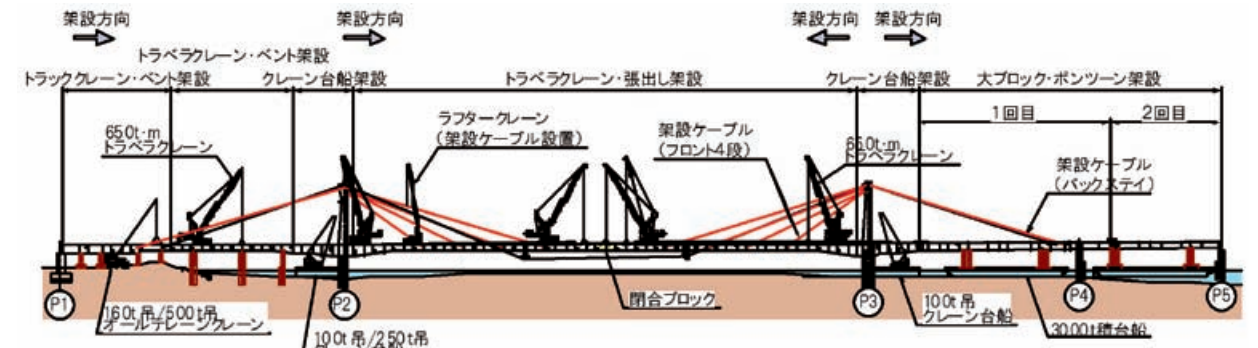
「イグレット(egret)」とは白鷺(しらさぎ)という意味で、徳島県の県鳥でもあり、ケーブルを張った橋の外観が、まさに飛び立とうとしている白鷺に似ているということから命名されました。この名はそのまま橋梁の正式名称にも採用されています。

横河ブリッジの施工は、平成21年12月に着工しました。まず、P1～P2側径間、P3～P5側径間および中間橋脚の施工を同時に開始し、翌年10月より主塔の架設を開始しました。同12月より中央径間に向け、架設ケーブルによる斜吊りを併用しながらトラベラクレーンによる張り出し架設を開始し、翌年5月に無事中央径間の閉合を迎えました。

主桁閉合後、本ケーブルの架設と架設ケーブルの撤去を行い、横河住金ブリッジの開発製品であるサンドイッチ合成床版と歩道部鋼床版の設置の後、本年初旬より舗装等の橋面工事を施工し完成しました。

本橋のコンセプトは、周辺環境に最大限配慮した「環境にやさしい橋梁」であり、徳島の新たなランドマークとしても期待されています。また、本橋の完成と関連する道路事業の更なる進捗により、周辺の交通渋滞の緩和が期待されているところです。

【本工事につきましては、株主通信No.25(平成23年2月発行)のトピックスでもその様子をお伝えしております。】



本橋の架設方法



ケーブルイグレット部分



上空からの全景写真

■ 連結貸借対照表

	当期	前期
	平成24年3月31日現在	平成23年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>58,197</b>	<b>54,061</b>
現金預金	10,113	11,389
受取手形・完成工事未収入金等	37,096	36,187
有価証券	5,209	814
たな卸資産	1,469	1,414
繰延税金資産	2,242	2,064
その他	2,110	2,229
貸倒引当金	△ 42	△ 38
<b>固定資産</b>	<b>36,846</b>	<b>33,681</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>21,316</b>	<b>18,199</b>
建物・構築物(純額)	7,165	6,423
機械装置及び運搬具(純額)	1,690	2,038
土地	12,131	9,408
建設仮勘定	55	16
その他(純額)	273	311
<b>無形固定資産</b>	<b>979</b>	<b>1,036</b>
ソフトウェア	886	911
その他	93	125
<b>投資その他の資産</b>	<b>14,549</b>	<b>14,444</b>
投資有価証券	10,444	9,488
関係会社株式	65	64
繰延税金資産	3,432	4,246
その他	668	842
貸倒引当金	△ 61	△ 197
<b>資産合計</b>	<b>95,044</b>	<b>87,742</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成24年3月31日現在	平成23年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>29,133</b>	<b>24,861</b>
支払手形・工事未払金等	15,651	12,588
短期借入金	—	2,000
1年内返済予定の長期借入金	1,000	—
未払法人税等	1,086	780
未成工事受入金	3,747	3,288
工事損失引当金	4,248	3,253
賞与引当金	1,697	1,632
その他の引当金	113	118
その他	1,587	1,198
<b>固定負債</b>	<b>15,089</b>	<b>12,419</b>
長期借入金	6,723	4,000
退職給付引当金	6,845	7,054
役員退職慰労引当金	849	771
負ののれん	21	64
その他	649	528
<b>負債合計</b>	<b>44,223</b>	<b>37,280</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>52,265</b>	<b>52,926</b>
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,088	10,088
利益剰余金	33,702	33,839
自己株式	△ 961	△ 437
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 2,048</b>	<b>△ 3,045</b>
その他有価証券評価差額金	281	△ 715
土地再評価差額金	△ 2,329	△ 2,329
<b>少数株主持分</b>	<b>603</b>	<b>581</b>
<b>純資産合計</b>	<b>50,821</b>	<b>50,462</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>95,044</b>	<b>87,742</b>

■ 連結損益計算書

	当期	前期
	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
<b>売上高</b>	<b>72,725</b>	<b>75,462</b>
売上原価	63,930	66,076
<b>売上総利益</b>	<b>8,794</b>	<b>9,385</b>
販売費及び一般管理費	6,896	7,185
<b>営業利益</b>	<b>1,897</b>	<b>2,200</b>
営業外収益	363	923
営業外費用	233	242
<b>経常利益</b>	<b>2,027</b>	<b>2,881</b>
特別利益	47	125
特別損失	105	757
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>1,969</b>	<b>2,249</b>
法人税、住民税及び事業税	1,193	855
法人税等調整額	492	247
少数株主損益調整前当期純利益	284	1,145
少数株主利益又は少数株主損失(△)	22	△ 1
<b>当期純利益</b>	<b>262</b>	<b>1,147</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

	当期	前期
	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>6,798</b>	<b>1,791</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 5,865</b>	<b>△ 960</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>798</b>	<b>△ 1,769</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△ 5</b>	<b>△ 13</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>1,726</b>	<b>△ 951</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>11,359</b>	<b>12,310</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>13,085</b>	<b>11,359</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結株主資本等変動計算書

当 期 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	その他の包括利益 累計額合計		
<b>平成23年4月1日期首残高</b>	9,435	10,088	33,839	△ 437	52,926	△ 715	△ 2,329	△ 3,045	581	50,462
<b>連結会計年度中の変動額</b>										
剰余金の配当			△ 399		△ 399					△ 399
当期純利益			262		262					262
自己株式の取得				△ 523	△ 523					△ 523
圧縮積立金の積立				1	1					1
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						997		997	22	1,019
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>△ 136</b>	<b>△ 523</b>	<b>△ 660</b>	<b>997</b>	<b>—</b>	<b>997</b>	<b>22</b>	<b>358</b>
<b>平成24年3月31日期末残高</b>	<b>9,435</b>	<b>10,088</b>	<b>33,702</b>	<b>△ 961</b>	<b>52,265</b>	<b>281</b>	<b>△ 2,329</b>	<b>△ 2,048</b>	<b>603</b>	<b>50,821</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

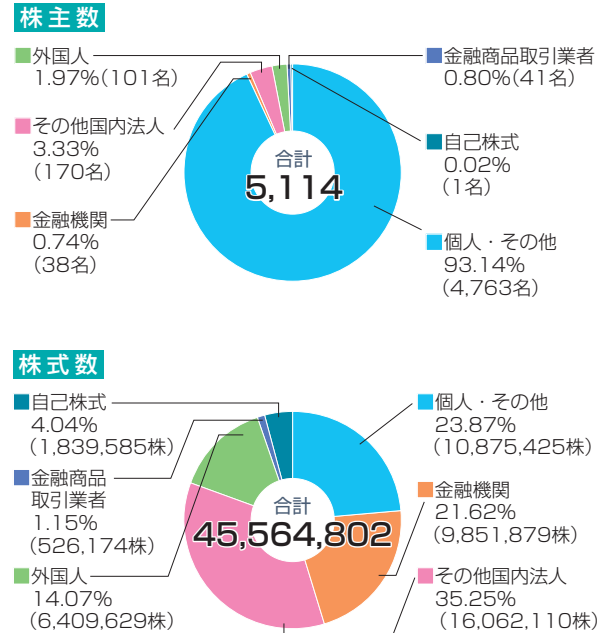
株式の状況

発行可能株式総数…………… 180,000,000株  
 発行済株式総数…………… 45,564,802株  
 株主数…………… 5,114名

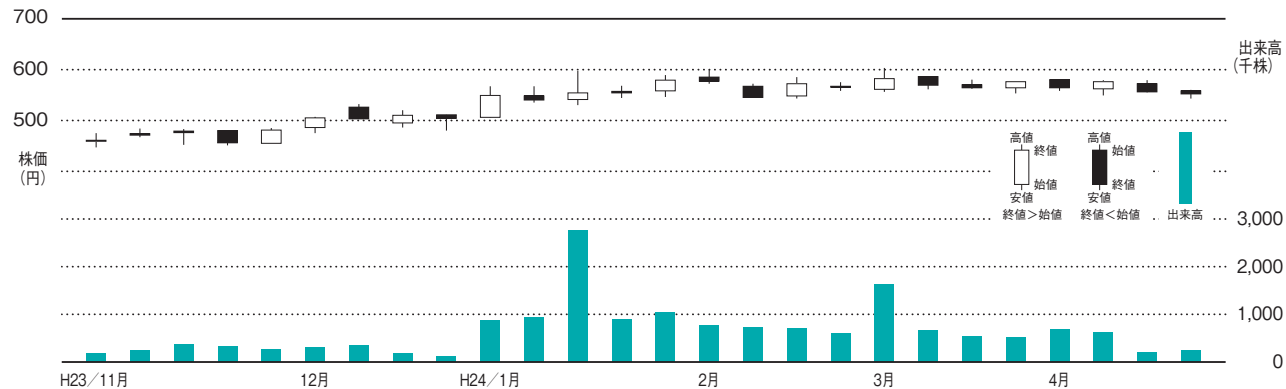
大株主 (上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
横河電機株式会社	2,793,691	6.13
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,265,000	4.97
新日本製鐵株式会社	1,987,303	4.36
自己株式	1,839,585	4.03
CGML-IPB CUSTOMER COLLATERAL ACCOUNT	1,768,000	3.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,581,000	3.46
瀧上工業株式会社	1,140,000	2.50
株式会社みずほコーポレート銀行	890,612	1.95
日本生命保険相互会社	678,839	1.48
住友不動産株式会社	674,000	1.47

株式分布状況



株価および出来高の推移



会社概要

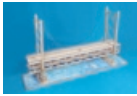


社名 株式会社横河ブリッジホールディングス  
 所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号  
 TEL:03-3453-4111(代表)  
 資本金 9,435百万円  
 主な機能 経営戦略、法務・監査、経理・財務  
 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

役員一覧 (平成24年6月28日現在)

代表取締役社長	吉田 明
代表取締役専務	名取 暢
取締役	藤井 久司
取締役	上原 修
取締役	猪岡 修治
取締役	小川 克美
取締役	高田 和彦
常勤監査役	北爪 恒平
常勤監査役	深沢 誠
監査役	志々目 昌史 (社外監査役)
監査役	八木 和則 (社外監査役)
監査役	西山 重良 (社外監査役)

●表紙の写真は、平成23年度 高校生「橋梁模型」作品発表会に出展された作品の一部を掲載しております。作品名・学校名・作成者は右のとおりです。

※この作品発表会は、東北6県の高等学校で土木を学ぶ生徒を対象に募集を行い、橋梁模型づくりを通じて橋の種類や構造に関する知識を深めてもらうとともに、ものづくりの楽しさを体験してもらうことを目的として平成14年度から実施されております。

作品名	学校名	作成者(敬称略)
	明石海峡大橋 山形県立長井工業高等学校	須貝 円香 川崎 拓也 佐藤 伶
	城ヶ倉大橋 青森県立青森工業高等学校	佐々木 鮎弥 佐藤 瑞樹
	横浜ベイブリッジ 福島県立二本松工業高等学校	大竹 伶 大場 匡広



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	<a href="http://www.ybhd.co.jp/">http://www.ybhd.co.jp/</a>



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

## YBHDグループ



**株式会社 横河ブリッジホールディングス**  
グループ全体の経営管理



**株式会社 横河ブリッジ**  
橋梁・橋梁関連製品・精密機器製造



**横河工事株式会社**  
土木・建築・保全



**株式会社 横河システム建築**  
システム建築・開閉式建築システム・環境



**株式会社 横河住金ブリッジ**  
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



**株式会社 榎崎製作所**  
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



**株式会社 横河技術情報**  
情報処理サービス・ソフトウェア開発



**株式会社 横河ニューライフ**  
不動産管理・情報システム・人材派遣



**株式会社 ワイ・シー・イー**  
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

